

山口県大学ML（Museum・Library）連携事業報告

令和5年度 展示テーマ

『うみだす』



山口県大学ML（Museum・Library）連携事業報告 令和5年度 展示テーマ『うみだす』

事業の経緯と経過

令和5年度は、参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を活かした学術資料または研究成果の展示を開催するという従来の体制により、引き続き特別展を開催しました。今年度は、12大学14館（下記「事業の実施体制」参照）での開催となりました。

今年度の事業説明会はオンライン会議として開催し、事業内容については、

◎展示の共通テーマを『うみだす』とする

◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館1ヶ月以上展示を開催する

◎新型コロナウイルス感染症発生前には例年開催していたスタンプラリーを今年度は再開する

◎スタンプラリー達成者には記念品としてエコバッグを作製・配布するなどが決定されました。

以降、各館の展示準備とともにポスター、チラシなどを作成し、広報物の配付による事業の周知などを行いました。

令和5年10月、予定通り『山口県大学ML連携特別展』は開幕しました。新型コロナウイルス感染拡大等の社会情勢に応じ、展示観覧者を学内者のみに制限する等の対応を行った館もあった中、会期中に計数された見学者数は約684名（図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難）でした。昨年度計数値460名と比較すると大幅に増加しており、新型コロナウイルス感染症が流行する前の状態に徐々に近づいている様子が感じられました。次頁より、参加各館の展示内容の紹介と実施成果の報告を行っております。

事業の実施体制

・主催

山口県大学ML連携事業実行委員会事務局

事務代表 水津峰夫（山口大学学術基盤部学術基盤推進課 副課長）

事務担当 黒瀬仁昭（山口大学学術基盤部学術基盤推進課企画連携係）

村上晃輝（山口大学学術基盤部学術基盤推進課企画連携係）

・参加館

岩国短期大学付属図書館 宇部フロンティア大学附属図書館

至誠館大学附属図書館 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館

下関短期大学図書館 周南公立大学図書館

東亜大学附属図書館 梅光学院大学図書館 水産大学校図書館

山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館

山口県立大学図書館 山口大学総合図書館

山口大学医学部図書館 山口大学埋蔵文化財資料館

・共催

大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



展示広報用ポスター



山口県大学ML連携事業Web



岩国短期大学 附属図書館 『幼児教育の世界観 ～イメージからうみだす～』

住 所：〒740-0032 山口県岩国市尾津町2丁目24-18

電 話：0827-31-8141 (代)

e-mail: library@iwakuni.ac.jp

http://www.iwakuni.ac.jp/

●開催期間：10月23日（月）～12月22日（金）

【展示内容】

岩国短期大学幼児教育科では、「Iwatan 親子広場」「お店屋さんごっこ」「キッズルーム」「Iwatan 親子フェスタ」という行事を開催し、幼児教育の世界観を発信しています。教員・学生が子どもたちをイメージの世界へ招待するのです。子どもたちはその素直な心と真っ直ぐな眼で、学生がうみだした様々なイメージの世界の中で遊びを展開していきます。それを見る学生にも新たな志がうまれるのです。これらのイベントは地域でも大好評です。今回の展示では、こうした学生が「うみだす」子どもの世界観の一部を紹介いたしました。

【関連事業】

大学祭（11月19日）

【成果】

本特別展を展示した結果として、アンケート結果から、展示物への感想が非常に良いと回答者7名全員が答えているものの、ほとんどが学生の展示作品への印象について述べられています。学生作品を観覧できる良い機会と思われるので、展示物として続けていきたいと思っていますが、図書をはじめとする貴重資料などについての感想が少ないのが残念でした。本図書館は規模が小さく、特別展示を書籍の借用のために訪れたら必ず目にする位置にしているので、特別展示を知らずに訪れた利用者にも観覧していただきました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

観覧者数は近年減少傾向にあるので、ML連携特別展について、展示作業や展示案内などで学生の参加があれば、特別展示への意識が持たれ、少しでも観覧者が増加するのではないかと考えます。また、広報に関しても力を入れていきたいと思っています。



展示の様様



展示観覧風景



宇部フロンティア大学附属図書館 『うみだす ～来場者参加型コラージュ～』

住 所：〒755-0805 宇部市文京台2-1-1

電 話：0836-38-0524

e-mail: tosho@frontier-u.jp

http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-institution/a-library/

●開催期間：10月2日（月）～12月25日（月）

【展示内容】

コラージュ (collage) は膠（にかわ）による貼り付けを意味するフランス語で、絵画の技法だけでなく、グループ活動や心理療法などに幅広く用いられている方法です。今回の展示では「わたしのお気に入り」を作品テーマとして、来場者参加型コラージュを実施いたしました。一枚の大きな台紙に、来場者が気に入った写真や文字などの切り抜きを次々と貼り付けていき、ひとつの作品を制作しました。どのようなコラージュ作品がうみだされるのか、そのプロセスも楽しみながら、コラージュ制作にご参加いただきました。

【関連事業】

大学祭（10月21・22日）

【成果】

観覧者参加型の展示企画に挑戦しました。今回は、身近なコラージュ技法を用いたことで、気軽に参加して楽しんでいただき、学内者と学外利用者の合同作品を制作することが出来ました。また、展示の準備段階から、学生協働の学生を中心に全学の協力を得たことが功を奏し、複数の学生の保護者の観覧があったことも印象的でした。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

評判の良かった参加型展示については、引き続きチャレンジしたいです。また、出来上がった作品の活用方法についても、事前に計画し実行したいと思います。



展示の様様



展示の様様



至誠館大学 附属図書館 『スポーツからうみだす地域の輪』

住 所：〒758-8585 山口県萩市椿東浦田 5000

電 話：0838-24-4081

e-mail: library@shiseikan.ac.jp

http://www.shiseikan.ac.jp/library/

●開催期間：12月4日（月）～2月9日（金）

【展示内容】

至誠館大学では、スポーツ活動を通じた地域住民のネットワークづくりや萩市の夢あるまちづくりに貢献することを目的に、2018年11月に大学を拠点に活動する総合型地域スポーツクラブとして「至誠館クラブ」を設立しました。

今回は、「スポーツがうみだす地域の輪」というテーマのもと、クラブ設立の経緯や活動内容、今後の展望などについて紹介する写真や資料を展示し、地域にある大学としての使命や役割について考えていきました。

【成果】

2018年11月に大学を拠点に活動する総合型地域スポーツクラブ「至誠館クラブ」を設立しました。そのクラブ設立の経緯や活動内容、今後の展望などについて紹介する写真や資料を展示しました。

地域にある大学としての使命や役割について考え、発信する良い機会となりました。学外からの観覧者がほとんどいなかったのは残念でしたが、学内の教職員や学生に知ってもらえる良い機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

次年度は学外からの観覧者が増えるような取り組みができればと思います。地域の方に大学や大学図書館を知っていただく、良い機会にしていきたいです。



展示の模様



展示観覧風景



山陽小野田市立 山口東京理科大学図書館 『薬学と未来をうみだす』

住 所：〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通 1-1-1

電 話：0836-88-4512

e-mail: ylib@admin.socu.ac.jp

https://library.socu.ac.jp/drupal/

●開催期間：11月17日（金）～1月17日（水）

【展示内容】

本学は2018年に薬学部を開設し、今年度で6年目を迎えました。薬学部学生が1年生から6年生までそろい、初めて卒業生を送りだします。本学の薬学部で学び、薬学を通して世界や地域で活躍する人材をうみだすをテーマに、今後さらに地域の方々にも薬学への関心をもっていただけるよう薬学の魅力を伝えました。

【成果】

薬学部第1期生による優秀発表ポスター展を実施でき、テーマに沿ったものとして本学の資料と連携した形で展覧として成立させられた点が成果であると感じます。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示という形で供することができる資料を所蔵していないため、構成に工夫が必要である点が継続的課題です。



展示の模様



展示の模様



下関短期大学 図書館 『学生の思いやりがうみだす 栄養教育媒体』

住 所：〒750-8508 山口県下関市桜山町1-1
電 話：083-223-5340
e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp
<https://www.shimotan.jp/publics/index/51>
●開催期間：11月6日（月）～1月31日（水）

【展示内容】

栄養士には、栄養管理や衛生管理などの他に栄養教育という仕事があります。栄養教育では、食行動の変容が必要な対象者に専門的な知識をかみ砕いて話すことが大切になります。ここで必要になるのが栄養教育媒体です。本学では、その基礎として栄養指導実習の授業内で学生に栄養教育媒体を作成させ、それを使った模擬指導を行っています。対象者の食環境や社会的な立場などに思いをはせた力作が毎年うみだされます。今年度は、学生の思いやりが詰まった栄養教育媒体の数々をご覧くださいました。

【成果】

栄養健康学科の学習成果である栄養教育媒体を展示したことにより、該当学年である2年生が達成感を味わえたのはもちろんのこと、1年生もこれからの学習ビジョンを開けられるいい機会となりました。また「伝える」「教える」ための教材の作り方は保育学科の学生にも良い刺激となりました。生活習慣病について考えるきっかけとなったとの感想が寄せられたことから、考えながら観覧できる展示であったことが窺えました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本館は日頃の学習成果を披露する場としてML展を活用しており、学科の協力は必要不可欠であると考えています。学科のスケジュールと教職員の負担などの諸事情を踏まえて計画的に準備を進めたいと思います。



展示の様様



展示の様様



周南公立大学 図書館 『新時代へ・・・』

住 所：〒745-8566 山口県周南市学園台843-4-2
電 話：0834-28-5394
e-mail：toshokan@shunan-u.ac.jp
<https://www.shunan-u.ac.jp>
●開催期間：11月4日（土）～12月28日（木）

【展示内容】

2024年4月から設置される3学部5学科について紹介し、これからの周南公立大学について発信しました。各種展示により、新設および再編が行われる各学部学科の詳細や特色を理解していただくことにより、周南公立大学で『何をうみだせるのか』を知っていただける良い機会となりました。

【成果】

今回のイベントで、令和6年度の新学部、新学科について分かりやすく周知することができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

開館日における展示目的の来館者を増やすため、広報についてより一層の検討が必要と感じました。



展示の様様



展示の様様



水産大学校 図書館 『水の世界から産みだす糧』

住 所：〒759-6595 山口県下関市永田本町 2-7-1

電 話：083-286-5114

e-mail: nfulib@fish-u.ac.jp

http://library.fish-u.ac.jp

●開催期間：11月1日（水）～12月26日（火）

【展示内容】

水産業が持続可能な産業で在り続けるよう、水産大学校では、水産生物の増養殖や資源管理、漁業現場での省力化や環境保全、水産物の新たな加工法や高付加価値化、保蔵・流通・経営といった幅広い分野で研究に取り組んでいます。

本校では、このような研究活動をもとにして、高品質な水産食品を漁業現場から食卓まで安定供給するために不可欠な学理の教授を行い、我が国の食文化の根幹を支える「水産人」を数多くみだして参りました。水産資源調査、漁場再生、水産支援機器の開発、未利用資源の利用促進、水産振興への取り組みなどの研究を紹介するパネルとともに関連する資料の展示（5分野）を行いました。

【成果】

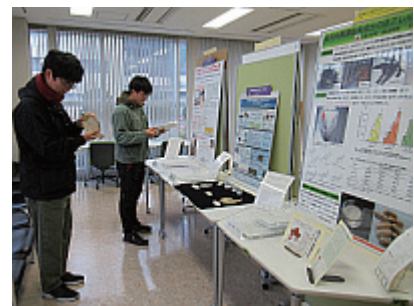
来場者104名のうち、52人からアンケートの提出があり、アンケート提出者の98%から展示物が“良い”または“非常に良い”との評価を得ました。ML 連携特別展で、引き続き、大学の研究紹介を希望する者はアンケート提出者の56%に達しました。また、4つのタイトルの展示物にそれぞれ添えた研究内容をまとめた配布資料のうち、最も人気があったものについては約1割の来場者が持ち帰りました。アンケートには「たまたま図書館に来てみたら、普段見ることのない先生方の研究内容を知ることができて良かった」との感想も記されており、大学の情報発信の場として本特別展が効果的な役割を担っていることが確認できました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今年度は外部の方にも展示を開放しましたが、当館では学外からの観覧者は10人にとどまり、少ないと感じました。平日が休みではない多くの社会人や小中高生、あるいは大学生にとっては土、日、祝の開館が望ましいであろうと思いましたので数回だけでも休日の開館をおこなうことを検討してみたいと思います。



展示の模様



展示観覧風景



東亜大学 附属図書館 『日中韓国際交流美術展 ダイジェスト』

住 所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1

電 話：083-257-5111

e-mail: tosyu@toua-u.ac.jp

https://www.toua-u.ac.jp

●開催期間：11月1日（水）～1月30日（火）

【展示内容】

「日中韓国際交流美術展」は、韓国、中国、日本の三つの大学の芸術系学部が共同参画する国際交流展です。今年度で8回目の開催となります。韓国の白石大学校と中国の嘉興学院の間で始まった本企画でしたが、2017年より日本から本学が参加することで現在のフォーメーションとなりました。今回は、本学がホスト校を務め、本展とオープニングセレモニーを秋吉台国際芸術村で実施したのち、本学図書館でその第二部展をダイジェストで行いました。

【成果】

今年度の山口県大学 ML 連携特別展のテーマは「うみだす」であったが、芸術創作を通して互いの感性を磨き合い、国際間の相互理解の促進に資するべく、持ち回りで開催されている本展覧会は、まさにその精神を体現するものであると思われました。そこには、作品を「うみだす」ことを通して相互の繋がりと信頼関係が「うみだ」され、交流が育まれるという意味で、二重の「うみだす」が体現されていました。秋吉台国際芸術村で実施された第一会期では、歓迎セレモニーやセミナー、ワークショップなども行われましたが、ここでは教員による出品作品から20点余を選びすぐてダイジェストでそのエッセンスを伝えました。学内関係者の高い関心を引くことができた点は評価されてよいと思います。その反面、宣伝不足からか、情報発信のあり方の不備からか、市民の参加者が伸び悩んだ点は、惜しまれます。とりわけ、学内に芸術学部を抱えながら学生の訪問者が少なかった点は、授業を通しての呼びかけの不十分さなど、今後の反省点となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

次年度に向けての課題としては、やはり本学の多様なソースをいかに活用することができるのか、という点が挙げられます。一部特定学科のみに偏るのではなく、限られた資源の中からいかに豊かで生き生きとした側面に光をあて、可視化していくことができるか、その可能性を組み尽くせるよう知恵を絞っていききたいです。



展示の模様



展示の模様



梅光学院大学 図書館

『梅幸学院誕生と キリスト教が紡いできたもの』

住 所：〒750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1

電 話：083-227-1040

e-mail: library@baiko.ac.jp

http://www.baiko.ac.jp/university/library/

●開催期間：10月3日（火）～11月30日（木）

【展示内容】

梅光学院は開学 150 周年を迎えました。梅光のこれまでの歩みが綴られた学院史料やキリスト教関連の書籍展示を通して、キリスト教とともに歩んできた梅光の歴史を振り返りました。

【成果】

展示は、梅光学院大学の通路に設置されたため、通りすがりの方々に足をとめていただけるようになり、以前より多くの方々にご覧いただくことができました。コロナ禍後初めての一般公開イベントを開催しました。梅光学院大学の歴史に関する展示を行ったため、卒業生の方々にも懐かしんでいただけました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

もう少し観覧者が多くなるように工夫をしたいと思います。



展示の様様



展示の様様



山口学芸大学

山口芸術短期大学 図書館

『考え・行動する力をうみだす ～ PBL ～』

住 所：〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町 1-7-1

電 話：083-972-2880

e-mail: akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp

http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library

●開催期間：10月23日（月）～12月22日（金）

【展示内容】

山口学芸大学では 2 年次に PBL 型授業として地域課題解決演習を行なっています。本授業では「デザイン思考」に則って課題解決の方法を模索しますが、その過程で学生たちに主体的に考え工夫し行動する力を育てることを目標としています。令和 2 年度から山口市名田島地区をパートナーとして「ICT 技術を活用した地域の活性化」を主題に、防災アプリの開発や SNS を活用した緊急連絡網の提案、河川カメラ設置の提案、地域の魅力の発信などのプロジェクトを立案し、その実装に取り組みました。今年度はその過程を展示しました。

【成果】

今回の展示で、大学では何を学び実践しているのかについて、学外・学内にに向けて発信できたと思われます。特に地域社会との連携や取組は、大学、そして学生が今なにが出来るのかを提示できる展示になりました。PBL に携わった学生たち、これから関わる学生たちも興味深く観覧していました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

パネルがメインとなる展示は初めてだったため、若干解説が物足りないなど反省点が多く、今後に生かしていきたいと感じました。

アンケートについて、スマホなどからの回答もできれば良いと思います。



展示の様様



展示観覧風景



山口県立大学 図書館 『かかれたものⅡ』

住 所：〒753-8502 山口県山口市桜島 6-2-1

電 話：083-929-6200

e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

https://www.ypu.jp/li/

●開催期間：11月1日（水）～1月30日（火）

【展示内容】

展示では、「かかれたものⅡ」をテーマに、印刷や紙の歴史に焦点を当て、重要な素材や技術を取り上げ、情報の普及と文化の交流を探究しました。過去の知恵と創造を辿り、書物の誕生や文化芸術の普及、古代の交流と記録方法について考察しました。展示を通じて、かかれたものの尊さと重要性を探究しました。

【成果】

「かかれたものⅡ」をテーマに教員の協力をいただき展示を行いました。多くの貴重な資料を、学内者だけではなく、学外の方々にも紹介することができました。アンケートにも『鳥獣戯画』の複製等、貴重資料を見学できたことについての感想が目立っていました。当館としても、普段利用しない方々の図書館への来館の機会を設けることができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

当館では学外者の展示見学が少なかったように思います。当館においては学外者の来館が少ないこともあるが、ML 連携展示についての周知について全体として見直しを考えても良いかもと感じました。併せて、アンケートの参加が少なかったように思います。次回以降はアンケートの周知とお願いを心掛け、アンケート参加者を増やすようにしたいと思います。スタンプラリーについても参加者をほとんど見かけませんでした。次回以降のスタンプラリーの在り方を考え直すのも良いかと考えました



展示の模様



展示の模様



山口大学 総合図書館 『それは農学部から始まった』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5182

e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（水）～1月31日（水）

【展示内容】

2023 年は山口大学が吉田キャンパスに移転して 50 年の節目の年になります。各学部の移転の経緯や、遺跡の発掘調査の様子、平川地域の移り変わりなど、この 50 年間の変化を当時の資料や写真を交えて紹介しました。

【成果】

アンケートでは展示物・解説ともに回答はすべて「良い」以上でした。興味をもった展示として「1966 年当時の写真」が複数挙げられており、キャンパスの変化を現在と比較できる資料への反応が良いようでした。

また、学生だけでなく学外の方も複数来場しており、学内外に吉田キャンパスの歴史を伝えられる展示となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

アンケートの記入は任意だったため、回収できた枚数が少なかったです。スタンプラリーも有意義ではありますが、単価が安いもの（付せん等）をアンケート記入の報酬としても良かったかもしれないと感じています。



展示の模様



展示の模様



山口大学 医学部図書館

『歴史で見る「医心」
—地域に育まれた山大医学部—』

住 所：〒755-8505 宇部市南小串 1-1-1

電 話：0836-22-2142

e-mail: medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（水）～1月31日（水）

【展示内容】

山口大学医学部は山口県の医学と医療の拠点として今もなお「医心」あふれる医療人をうみだし医学の発展に貢献しています。その「医心」の根底に流れている山口大学の医学部の歴史を振り返りつつ地域に貢献する医学部の現在の姿を紹介しました。

【成果】

今回の展示では宇部の地に医学教育が興隆した歴史を振り返りつつ、山口大学医学部として「医心」を根底に地域に貢献している姿をパネルで紹介しました。また医学部図書館所蔵の明治期初期の医学書を、出版に使用された時代の生き証人である版本と共に展示しました。入館者は学内者のみであったが、医学部図書館所蔵の貴重な資料をつなぎ合わせることで、学生や教職員に興味深く見てもらえる展示となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

広報に医学部のインスタ等利用しましたが、成果を感じられる情報発信ができませんでした。情報発信に動画をデジタルサイネージに掲載する、あるいは県の広報ブースでこの動画を公開するなどの外部への広報の方法を検討していく必要性を感じました。



展示の様様



展示の様様



山口大学 埋蔵文化財資料館

『信仰とマツリ
～人が生み出す精神文化～』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5035

e-mail: yuam@yamaguchi-u.ac.jp

http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryokan.home/

●開催期間：11月6日（月）～1月31日（水）

【展示内容】

考古学では、人類が残した物質や痕跡＝物質文化から過去の人類の生活風習・生活環境などを復元します。その考古学が苦手としているのが、目に見えないものや形に残らないもの＝精神文化の復元です。当展示では、当館が収蔵する考古資料の中から、信仰とマツリに関連するとみられる遺物を選定し、古代の精神文化について考察を行いました。

【成果】

会期中、330名の方々に観覧いただきました。入館者の内訳は、学生が71%、一般が25%で、外部からの観覧が少なかったように思います。

授業（博物館情報・メディア論）課題で当館展示のチラシ作成を行い、最高得点獲得者の作品を正式なチラシとして印刷・配布をしました（1,400枚）。他の授業でも展示見学が課題となっており、本学の学生教育に有効活用されました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

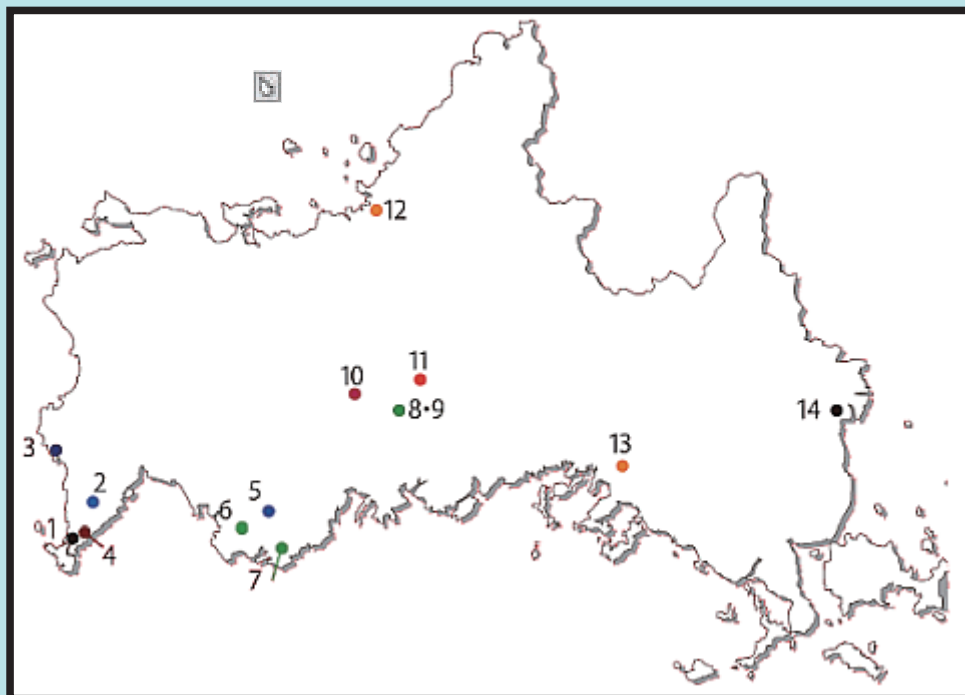
例年のことではあるが、1月に入館者数が大幅に減少しています。共通テスト実施やテスト週間の影響もあるが、1月に学外者に展示をアピールするのを感じました。



展示の様様



展示の様様



【下関地区】

1. 下関短期大学図書館 2. 東亜大学附属図書館
3. 水産大学校図書館 4. 梅光学院大学図書館

【宇部地区】

5. 宇部フロンティア大学附属図書館 6. 山陽小野田市立東京理科大学図書館
7. 山口大学医学部図書館

【山口・萩以東地区】

8. 山口大学総合図書館 9. 山口大学埋蔵文化財資料館
10. 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館 11. 山口県立大学図書館
12. 至誠館大学附属図書館 13. 周南公立大学図書館 14. 岩国短期大学付属図書館

Muse & Kin



山口県大学ML (Museum・Library) 連携特別展
令和5年度 共通展示テーマ『うみだす』
山口県大学ML連携事業Web
<http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集・発行】
山口県大学ML連携事業実行委員会
事務局
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話：083-933-5192
e-mail:
ml-ymgc-uc@yamaguchi-u.ac.jp

〔主 催〕
〔共 催〕
〔後 援〕

山口県大学ML連携事業実行委員会事務局
大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会
山口県博物館協会 大学博物館等協議会
山口県図書館協会